

事業報告書(令和5年度)

事業名 カラフルな個性って面白い!世界を共有し、未来へ
(発達に特性を持つ子どもたち、大人たちの持っている力をより社会で発揮して行くための土作りとしての情報共有や相談の場、自己理解や他者理解の場の提供)

団体名 カラフルキッズの会にじのね 担当者名 田中 朋子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

1. にじのね座談会(毎月最終火曜日開催)…今年度7月～11月は休止
2023年12月の再開時より、最終水曜日の開催となる
2. にじのね夜カフェ(毎月最終金曜日夜開催)…今年度7月より休止
3. にじのね楽習会(6月)
4. たのしいおんがくフェス(2月)
5. SNS等での交流・情報発信

*詳細は別紙

2. ESDの視点

1 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

楽習会では支援学校・支援学級・フリースクールなど様々な学びの場にお子さんが通われている保護者が情報共有をし、いろいろな学びの場や学びの形があることを参加者間でシェアすることが出来、「そんな選択肢もあると知れてよかった」という声が聴かれた。

②どのように学び合いを取り入れたか

昨年に引き続き、市内で活動している親の会の交流会にも参加し、情報交換などの横のつながりを構築するとともに、有志での企画で発達障害にも理解のある高校の学校紹介の会を催して、情報を共有することができた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

これまでに楽習会や音楽会、座談会でつながりのできた団体と一緒に、カラフルな個性を持つ子どもたちが自由な楽しみ方で参加できるおんがくフェスを開催し、演奏する側にも観客側にも様々な子どもたちや関わる人が参加し、活動を共有したり、いろいろな社会資源・地域資源をお知らせできる機会にもなった。

3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)

今年度初めての音楽フェスを開催することが出来た。
参加団体からは「子どもたちが楽しんでいる姿をたくさんの人に見ていただけて良かった」「子どもたちにとってもいい経験になった」との声をいただき、観客側からは「コンサートなどなかなか参加しにくいので、自由な形で参加できるコンサートで気後れすることなく、生の音楽を聞くことができてよかった」「観客と演奏者の垣根のないコンサートで、学校の音楽発表会では味わえない一体感を感じることができた」などの声をいただいた。
「障害」と呼ばれる特性を持つ子どもたちが一人一人自分らしく楽しんで参加できる、また、保護者の方にも子どもたちの頑張っているところや素敵などころを実際に体感できる良い機会となったと思う。

(様式第8号)

4. 今後の課題と展望(事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか)

今年度は告知方法の関係で7月から11月まで活動を停止し、2023年12月からの再開となったが、活動を停止している間も「復活を待っている」という参加者からの声を多くいただいた。また、実際に活動を再開した後も、活動停止前に参加してくださっていた方が引き続き参加して下さるケースが多く、この活動を続けている意味を実感した。

来年度も活動を継続し、また、たのしいおんがくフェスも今年度より規模が大きく開催できるようにし、子どもたちの輝きを社会に紹介できる場、また、どんな人でもたのしく参加できる場を目指して活動をしていきたい。

1.にじのね座談会 月1回最終火曜日に開催

会場:放課後等デイサービスRapo Lab*

開催日:5/30(1名).6/27(3名).12/19(1名).1/31(3名).2/28(2名)

発達障害と診断されている子もされていない子も含む、多様な個性を持つ子どもたちを育てる保護者がざっくばらんに情報交換や悩みや不安の相談がしやすいような環境を目指して取り組んでいる。

今年度は告知方法の関係で、2023年7月～2023年11月の座談会は休止としたが、2023年12月以降再開すると以前参加してくださっていた方が引き続き参加してくださり、場を続ける重要性を感じた。

また、ESD参加団体の「まんなか」さんでにじのねの存在を知ったと言われる方の参加もあり、発達に不安はあるが、病院や相談への一歩が踏み出せない方などに、自身の体験談や我が子の発達が不安になった当初のことなどをお話する中で、「相談に行ってみようと思った」と気持ちが前向きになった参加者も見られた。

参加者同士で支えあったり、気持ちを聞きあうことで気持ちが楽になり、個性の強い子どもたちへの向き合い方も前向きになれる場所になっている。



2.にじのね夜カフェ 毎月最終金曜日夜にオンライン(Zoom)で開催

開催日:5/26(3名).6/30(3名). 7月以降休止している

平日は仕事等で日中の座談会に参加しにくい方のために夜の時間帯にオンラインでの座談会を開催しているが、参加者も少なく、7月より活動を休止した。

(対面の座談会に参加しやすくなっているという要因もあると考えている)

参加が少ない中でも、以前対面での座談会に参加してくださっていたが、仕事の関係で日中さんかできなくなっていた方の久しぶりの参加もあり、大きくなったお子さんたちの近況を共有し、ともに喜ぶことが出来た。

3.にじのね楽習会 6月開催 対面

今年度は6/27に座談会の中の小さな楽習会として開催した。

「聴いてみたい！一人ひとりの学びの場」

支援学級・通常級・支援学校・フリースクールなど、スタッフや参加者のお子さんたちがそれぞれ選択してきた学びの場についてシェアをする機会を作った。

それぞれの学びの場を選択してきた経緯・現在の状況や心境を聴くことが出来、参加者からも「自分の子どもに当てはまる場所もあった」「新しい選択肢を知ることができた」という感想をいただいた。



4.たのしいおんがく 子どものためのおんがくフェス

2024年2月23日(金・祝)開催 灘崎文化センター小ホール

参加者(観客) 子ども42名 大人40名 (演奏者)子ども15名 大人サポーター21名 合計118名

今年度は3年ぶりに対面でのコンサートを初めてのフェス形式で開催することができた。

内容は

- ・岡山市で活動しているESDプロジェクト参加団体でもある「金星音読団」さんの朗読と音楽
 - ・岡山市南区の放課後等デイサービス「Rapo Lab*」に通う子どもたちとスタッフのバンド演奏
 - ・岡山市中区で活動している支援の必要な子と親の会「たんぽぽの会」さんのバンド活動の演奏
 - ・岡山市南区植松の「うえまつフリースクール」さんに通う子どもたちとスタッフのバンド演奏
- また、ESD参加団体である「HUG+KUMU」さんの協力のもと広島からゲストミュージシャンをお迎えした。

(ヒューマンソンググループ ザ・わたしたち さん)

申し込みの際に伺った参加予定のお子さんの特性に配慮し、会場全体の音量を小さくしたり、椅子席とは別にマットを敷いて寝転んだり、ゆったり座ったりしながら楽しめるスペースを設けたり、出入りしやすい雰囲気を作ったりなどの工夫をあらかじめおこなった。

参加者アンケートの結果では

(観客)

- ・障害があると生の演奏を聞く機会がないので、このような機会が成長につながると思った。
- ・親のストレス発散になった
- ・それぞれの楽しみ方で参加できるのがよかった
- ・フリースクールや放課後等デイサービスなど、普段あまり関わりがなかった場所を知ることができ、相談先があると知れて心強かった
- ・またぜひ参加したい

(演奏者)

- ・子どもたちが生き生きと演奏していた
- ・演奏者と観客が一体になった感じがした
- ・子どもたちにとって貴重な経験で、子どもたち同士の絆もできてよかった
- ・続けて開催してほしい

という声が多く聞かれた。

今年度は初めての開催ということで、会場規模も小さく、告知も広範囲にはしていなかったが、参加者も多く集まり、評判もとてもよかったため、来年度も同じ形式(フェス形式)で、会場も広くして、告知範囲も広げていき、岡山市から子どもたちの輝きを発信していける一つのイベントとして育てていきたい。



5.SNSでの情報提供や情報発信 随時

昨年度に引き続き、岡山市の放課後等デイサービス・児童発達支援事業所の情報一覧を整備し、新規事業所を中心に情報収集を行って、できるだけ新しい、正しい情報を伝えられるようにした。

今年度は新規開所の事業所からご連絡をいただくことも多く、よりスムーズに新しい情報を伝えることができた。

Facebook、LINE等を利用して、他団体や行政等の企画のイベントの情報を共有し、発信した。